



アイヌ文化の若手担い手と意見交換する大
学生

アイヌ文化担い手 学生と討論

関東から9人 白老を訪問

【白老】KIP知日派国際人育成プログラム（東京）の研修として胆振に滞在中の関東の大学生9人が3日、町内のアイヌ民族博物館を訪れ、アイヌ文化の若手担い手との討論などを通じて文化への理解を深めた。

一行は同館で古式舞踊公演の鑑賞やムックリ（口琴）の演奏体験に加え、担い手5人とアイヌ文化について討論した。大学生は、担い手になったきっかけやアイヌ文化教育の現状、文化が薄れつつあることへの危機感などについて質問。「和人对しての思いは」との問いに、担い手は「差別されてきた高齢者の中には複雑な思いを抱く人もいる」「つらい思いをしたことが

ある」などと答え、大学生は生の声に必死に耳を傾けた。

東京大学文科三類2年の渡部周さん（20）は「ネットや書籍でアイヌ文化にアクセスすることはできるが、直接接することで、言葉の重みを感じられ、興味が深まった」と話していた。

KIP知日派国際人育成プログラムは、日本をよく理解し、国際人として活躍できる人材を育てることが目的の活動。一行は2日から2泊3日の日程で室蘭や白老などを訪れている。

（土屋航）